

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170200234
法人名	有限会社 マイホームサービス
事業所名	グループホーム和
所在地	佐賀県唐津市双水字柿山2626番地 (電話) 0955-78-1238

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年8月29日

## 【情報提供票より】(平成20年4月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 10 人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造り 1階建て
------	-------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100	円	

## (4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 75 歳	最高 93 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	桑原医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一角にあり、回りは静かな環境で敷地内の庭には、畑や東屋があり外でゆっくり過ごす事が出来る。長く働くスタッフが多く、利用者との関係も家族のように自然である。管理者の、入所者・家族・近所の方・職員皆ホット出来るようなところになりたいという気持ちがスタッフの明るい笑顔からも窺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果をスタッフ全員で確認し、その結果、スタッフから改善の為の取り組みについて提案が出され、改善に向けた取り組みに繋がっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回のミーティングで自己評価についても話し合いの場を持ち、管理者はスタッフからの意見を聞いている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自己評価や外部評価の効果をより高めるためにも、運営推進会議と評価を結びつけるような取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回の利用料の支払い時を報告の機会としている。訪問された時には、「何かないですか」等の声かけをして、意見を言ってもらえるように働きかけているが家族等は意見や不満、苦情を言い出し難いということを理解し、家族等の立場になった意見表出の機会や場面づくりの一層の充実も期待される。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会や自治会に加入し、地域の活動に参加したり、事業所が行うミニコンサートや敬老会などのイベントに地域の方々へ参加の声かけを行い、交流の機会を作っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用される入居者・家族・地域の方々に安心感を与えることができるような家庭の延長となる事業所を目指した理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃から管理者も一緒に働きながら日常の会話の中で理念の共有に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会や自治会に加入し、地域の活動へ参加している。また、事業所で行うミニコンサートや敬老会などのイベントには地域の方々へ参加の声かけを行い、交流の機会を作っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価では、その結果に対し、スタッフが自発的に業務改善案を出し改善に向けて取り組んだ。また、月1回のミーティングで話し合いの場を持ち、業務改善に向け努力している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を十分に理解して積極的に参加してもらえるような働きかけには至っていない。	○	運営推進会議は、幅広い立場の人が参加する機会とし、会議では報告や情報交換にとどまらず、評価の取り組みや評価後の改善への取り組みをモニターしてもらうなど評価と運営推進会議を結びつける取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へは出席されているが、連携の機会が少ない。	○	現場や利用者の課題解決のためには行政の理解や支援などが必要なことも多く、そのためにも考え方や実態を共有できるような一層の関係づくりに向けた積極的な取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回支払いには来ていただくようにし、報告の機会としている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、「何かないですか」等、声かけをして、意見を言ってもらえるように働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を保つことを重視した、職員の配置が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が一律ではなく、各職員の経験や実践の習熟度等に応じて、段階的に力をつけていけるような研修機会の確保には至っていない。	○	職員が日々の体験を学びにつなげていくための「働きながらの学び」の機会と、限られた職員体制の中で実務に支障を来さないような研修機会を確保できるよう年間計画の中で研修を位置づけていく運営面での更なる工夫が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者のネットワークを通じ交流に努めている。今後は職員間の交流の充実にも努めることとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一般の家庭のような雰囲気、入りやすいために見学等でも自然に馴染んで過ごす事が出来ている。体験入居の受け入れも行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を教えてもらったり、子育てについて話したりして、共に生活する家族の一員として接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの充実を図るとともに、1対1でゆっくり過ごす時間を作り、その中で話を聞き、情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見や要望を基に、スタッフで話し合い、計画作成担当者と意見交換し、計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス実施記録でチェックし、実施状況の把握と評価も行い、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の対応を行い、家族へ報告したり、「自宅へ帰りたい」と希望があれば家族と連絡を取り自宅へ送るなど一人ひとりの希望に添えるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとり希望のかかりつけ医に受診している。必要な方には、訪問診療も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族から終末期まで見て欲しいと希望が出ている。今後、考えていく予定である。	○	本人、家族等かかりつけ医や看護師等と事業所側の考え方や意向がずれたまま重度化の時期を迎えることがないよう、できるだけ早期から話し合いの機会を作り関係者全体の方針の統一を図っていく取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は事務所にて管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがそれぞれのペースで自由に過ごせるように、話し合いながらその時々で柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来る事を一緒に行い、食事も入居者とスタッフ全員同じテーブルで食べ、楽しい雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にあわせて入浴している。入浴を拒否される人も定期的に入浴出来るように言葉掛けや対応を工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自が自分の役割を持てるように配慮し、役割を依頼した際には、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物などの外出や庭に東屋があり、おやつを庭で食べるなど、日常的に外に出かけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵を掛けていない。目を離さないように、居場所が確認できるように職員が見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルを作成し、見やすい場所に掲示し各自が確認している。隣家に緊急時の協力依頼もしている。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し地域住民の参加や協力を得た避難訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の食事・水分量を記録し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや洗面所には花が飾っており、廊下には椅子がある。居間には、外を眺められる大きな窓があり、自分の好きな場所でゆっくり過ごせるような居場所の工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分らしい生活が出来るように使い慣れたものや、好みのものを持ち込んでいただき、利用者の居心地のよさに配慮している。		